

『産業カウンセラー等の実態調査』詳報：その2

職種で「カウンセラー」を選んだ人は…？ (つづき)

今回は、質問24（4）の職種で「カウンセラー」を選んだ方、つまり現役「カウンセラー」は、他の質問にどう答えているかを見てみました。今回はそのつづきですがもう少し細かく分析します。

6. 「カウンセラー」がさらに学びたいことは？

現役の「カウンセラー」は、さらにどのような特性を身につけたいと思っているのでしょうか。

そのベスト3を見ると最も多かったのは、『カウンセリング関連技能（傾聴、面接、療法、アセスメントなど）』で71.0%、次いで『専門知識（カウンセリング理論など）』54.6%、『経験（面接、スーパーバイジングなど）』36.5%となっています（質問16：3つ以内選択）。やはり技能（スキル）についての希望が多いようです。では、そのスキル向上・維持のために行なっている活動はどうでしょう。

最も多かったのは『協会の講義などの受講』で42.8%、次いで『他団体の講義などの受講』39.1%、『日常業務での意識的な経験』37.8%、『カウンセラー、コンサルタントの経験』37.4%、『個人学習（自己啓発）』21.7%と続きます（質問17：3つ以内選択）。身につけたいと思っている『技能』もどちらかという実経験によるよりも講義の受講による傾向が強いです。（図8）

7. 「自営」で活動する現役「カウンセラー」は？

では次に、質問11で、活動の場として『自営の事務所の相談室で』と質問12の活動の形態として『自営で』を選んだ現役「カウンセラー」の人たちは、どのような特徴があるのか見てみましょう。

ちなみに該当する現役「カウンセラー」はちょうど100人で、現役「カウンセラー」1,919人の5.2%になります。なお「産業カウンセラー」資格だけの人の割合は55.0%ですが、現役「カウンセラー」全体の中での割合48.0%より多くなっています。また、「シニア産業カウンセラー」の資格をもっている人の割合は25.0%と、現役「カウンセラー」全体の中での割合10.7%よりかなり多くなっています。

（1）活動の形態や場所は？

まず活動の形態は『自営で』が83.0%ですが、他に『フリーランサーで』が59.0%、『常勤雇用の主たる業務で』が15.0%と、他にも活動の場をもっています（質問12：2つ以内選択）。

その場所は、『自営の事務所の相談室で』が

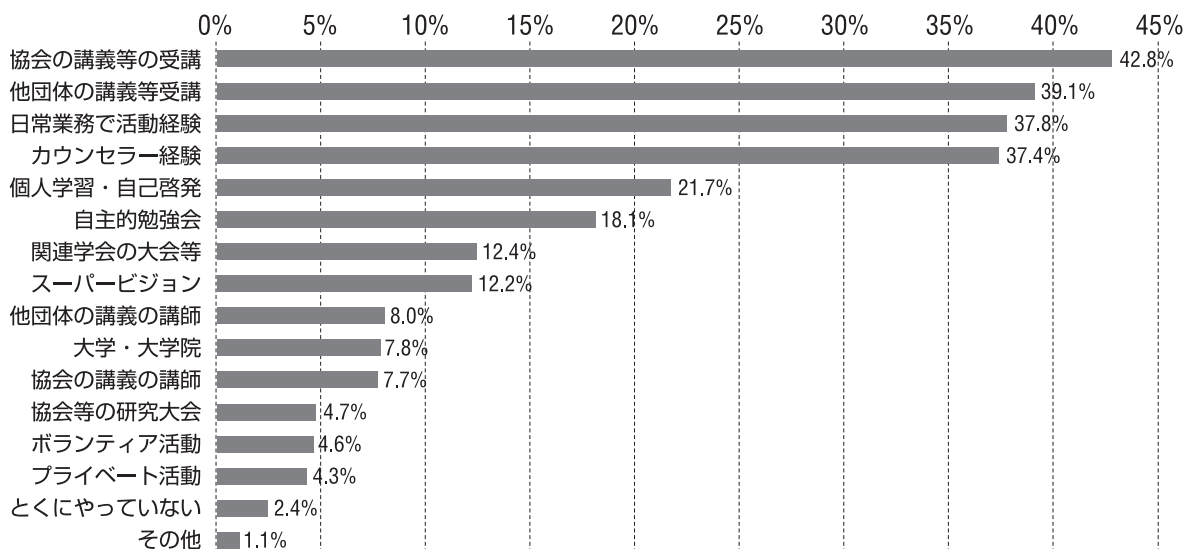


図8 職種「カウンセラー」のスキル向上活動

73.0%、他に『学校等の教育機関で』25.0%、『官公庁・自治体の相談室で(ハローワークは除く)』22.0%、『一般企業内の相談室で』21.0%となっています(質問11: 3つ以内選択)。

(2) 活動の内容は?

では活動の内容はどうでしょう。『メンタルヘルス・ケアの個人面接』が最も多く81.0%、次いで『メンタルヘルス・ケアの教育研修講師』52.0%、『キャリアカウンセリングの個人面接』47.0%、『職場復帰支援』35.0%、『人間関係開発の教育研修講師』27.0%、『メンタルヘルス・ケアのコンサルテーション』26.0%となっており、メンタルヘルス・ケアへの援助が大半を占めていますが、人間関係開発への援助も行なっています(質問13: 5つ以内選択)。(この「活動の内容」については図9にまとめて記します)。

(3) スキル向上・維持の活動は?

「自営」の「カウンセラー」がそのスキル向上・維持のために行なっている活動はどうでしょう。最も多かったのは『カウンセラー、コンサルタントの経験』49.0%、次いで『他団体の講義などの受講』48.0%、『協会の講義などの受講』32.0%、『個人的にスーパービジョンを行なう、または受ける』30.0%、『他団体が企画する講義等の講師等の経験』25.0%と続きます(質問17: 3つ以内選択)。

この結果は、6. で見た現役「カウンセラー」全体の傾向とはかなり違い、スーパービジョンを含め「経験」を重視しているようです。

8. 「外部EAP機関」で活動する現役「カウンセラー」は?

次に、質問11で、活動の場として『外部EAP機関で』を選んだ現役「カウンセラー」の人たちは、どのような特徴があるのでしょうか。

ちなみに該当する現役「カウンセラー」は151人で、現役「カウンセラー」1,919人の7.9%になります。また「産業カウンセラー」資格だけの人の割合は49.0%ですが、「シニア産業カウンセラー」の資格をもっている人の割合は20.0%と、現役「カウンセラー」全体の中での割合10.7%より多くなっています。

(1) 活動の形態や場所は?

まず活動の形態は『フリーランサーで』が72.2%で最も多く、次いでEAPの社員として『常勤雇用の主たる業務で』が27.2%、『常勤雇用の従たる業務で』11.9%です(質問12: 2つ以内選択)。

その活動の場所は、EAP機関以外では『一般企業内の相談室で』19.2%、『官公庁・自治体の相談室で(ハローワークは除く)』『ハローワーク』『協会の相談室等』が同率で11.9%、『自営の事務所の相談室で』が11.3%となっています(質問11: 3つ以内選択)。

(2) 活動の内容は?

活動の内容は『メンタルヘルス・ケアの個人面接』が最も多く90.7%、次いで『メンタルヘルス・ケアの教育研修講師』と『職場復帰支援』が同率で46.4%、『キャリアカウンセリングの個人面接』39.7%、『メンタルヘルス・ケアのコンサルテーション』30.5%となっており、やはりメンタルヘルス・ケアへの援助が大半を占めています(質問13: 5つ以内選択)。(この「活動の内容」については図9にまとめて記します)。

(3) スキル向上・維持の活動は?

では「EAP」の「カウンセラー」がそのスキル向上・維持のために行なっている活動はどうでしょう。最も多かったのは『他団体の講義などの受講』53.6%、次いで『協会の講義などの受講』47.0%、『カウンセラー、コンサルタントの経験』40.4%、『関連学会の大会やワークショップ等に参加』25.2%、『日常業務のなかでの意識的な活動の経験』23.2%、『個人的にスーパービジョンを行なう、または受ける』18.5%と続きます。この結果は、6. で見た現役「カウンセラー」全体の傾向と似て講義の受講を重視しているようです(質問17: 3つ以内選択)。

9. 「ハローワーク」で活動する現役「カウンセラー」は?

さてここで、改めて「ハローワーク」で活動している現役「カウンセラー」の人たちは、どのような特徴があるかを見てみましょう。

質問11で、活動の場として『ハローワーク(ジョブカフェ、ヤングワークプラザなどを含む)』を選んだ人は768人で、現役「カウンセラー」1,919人の40.0%になります。なお、この人たちが持つ

キャリア・カウンセリング関係の資格の割合は、協会認定資格54.0%、他団体認定資格26.0%、2級キャリア・コンサルティング技能士6.4%でした。

(1) 雇用や活動の形態は？

まず雇用の形態ですが、『契約社員』60.8%、『正社員(常勤雇用者)』17.6%、『非常勤(顧問など)』15.8%で、6割が契約社員で、現役“カウンセラー”全体の43.8%よりかなり高くなっています(質問23：1つ選択)。

活動の形態は『常勤雇用の主たる業務で』が60.1%で最も多く、次いで『フリーランサーで』が35.9%です(質問12：2つ以内選択)。

(2) 活動の内容は？

では活動の内容はどうでしょう。『キャリアカウンセリングの個人面接』87.6%、『キャリアカウンセリングのコンサルテーション』25.1%、『キャリアカウンセリングの教育研修講師』22.9%、『キャリアカウンセリングの企画や制度設計やその運営』5.1%となっており、やはり『個人面接』が9割近くにのぼっています。また並行して『メンタルヘルス・ケアの個人面接』29.1%、『職場復帰支援』12.5%も行なっています(質問13：5つ以内選択)。(この「活動の内容」については図9にまとめて記します)。

(3) スキル向上・維持の活動は？

「ハローワーク」で活動するカウンセラーのスキル向上・維持のために行なっている活動で最も多かったのは、『協会の講義などの受講』と『日常業務での意識的な経験』が同率で46.2%、次いで『カウンセラー、コンサルタントの経験』32.1%、『他団体の講義などの受講』31.7%、『個人学習(自己啓発)』24.6%、『仲間との自主的勉強会に参加』20.5%と続き、やや体験重視の傾向が見られます(質問17：3つ以内選択)。

10. 「臨床心理士」の資格を併せ持つ現役カウンセラーは？

では最後に、「臨床心理士」(2009年4月現在：19,830人)の資格を併せ持つカウンセラーは、どのような活動をしているのでしょうか。質問1で、『臨床心理士』を選んだ人のうち現役カウンセラーは95人で、全現役カウンセラー1,919人の

5.0%になります。そのうち協会認定資格は「産業カウンセラー」だけの人の割合は64.2%ですが、「シニア産業カウンセラー」の資格ももっている人の割合は31.6%と、現役カウンセラー全体のうちの割合10.7%の3倍になっています。

(1) 活動の形態や場所は？

その活動の形態は『フリーランサーで』が62.0%で最も多く、以下『常勤雇用の主たる業務で』が29.1%、『常勤雇用の従たる業務で』12.7%で、『自営で』は5.1%です(質問12：2つ以内選択)。

その場所は『学校等の教育機関で』48.1%、『外部EAP機関で』24.1%、『病院・診療所・クリニックで』21.5%、『一般企業内の相談室で』20.3%となっており、学校(スクール・カウンセラー)や病院系の場所が目立ちます(質問11：3つ以内選択)。

(2) 活動の内容は？

活動の内容はどうでしょう。『メンタルヘルス・ケアの個人面接』が最も多く93.7%、次いで『メンタルヘルス・ケアのコンサルテーション』53.2%、『メンタルヘルス・ケアの教育研修講師』48.1%、『職場復帰支援』43.0%、『アセスメント業務』29.1%、『メンタルヘルス・ケアの企画等やその運営』17.7%、『キャリアカウンセリングの個人面接』16.5%、『スーパーバイザー業務』13.9%となっており、『アセスメント業務』や『スーパーバイザー業務』などを行なっている点が特徴的です(質問13：5つ以内選択)。(この「活動の内容」については図9にまとめて記します)。

(3) スキル向上・維持の活動は？

そのスキル向上・維持のために行なっている活動はどうでしょう。最も多かったのは『他団体の講義などの受講』69.5%で、以下『関連学会の大会やワークショップ等に参加』55.8%、『個人的にスーパービジョンを行なう、または受ける』40.0%、『カウンセラー、コンサルタントの経験』26.3%、『協会の講義などの受講』21.1%、『日常業務での意識的な経験』17.9%と続きます(質問17：3つ以内選択)。

この結果は、6.で見た現役カウンセラー全体の傾向とはかなり違い、関連学会やスーパービジョンなどを重視していることが分かります。

以上の「自営」「EAP」「ハローワーク」「臨

床心理士」の区分は、次元が異なるのでそれぞれの回答者に重複があり厳密には比較は困難です。しかし、これから専門性をもって「カウンセラー」として活動しようとする際に参考になる「実態」です。皆様はいかがお考えでしょうか？

お読みになってのご意見、ご感想を下記アドレ

スにお寄せください。

chousa@counselor.or.jp

今回は、視点を変えて「資格を活用している人」とそうでない人の違いについて見ていく予定です。

(文責：渡邊忠)

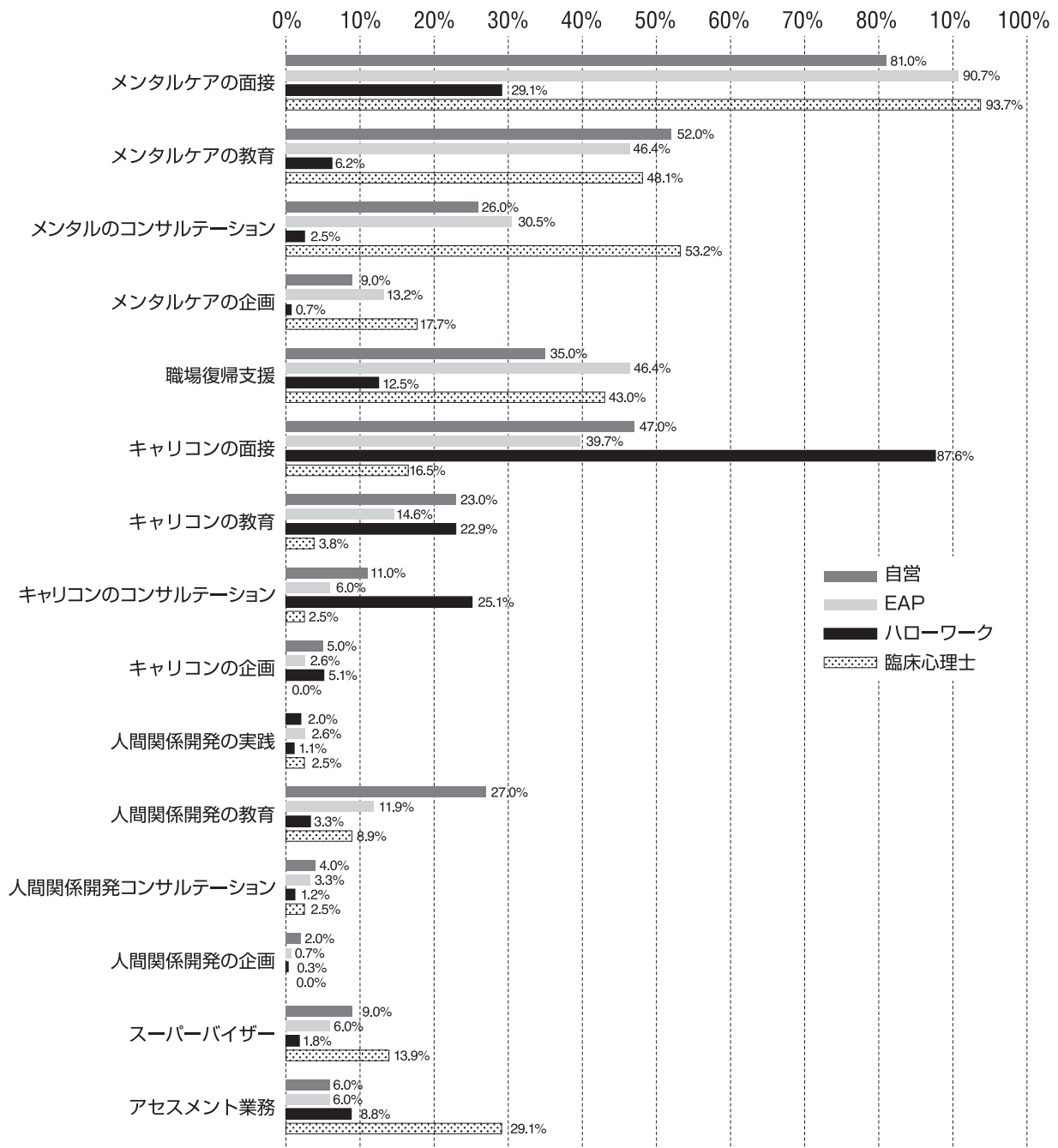


図9 職種「カウンセラー」の活動内容の比較

(「自営」「EAP」「ハローワーク」「臨床心理士」の違い)

研究所ホームページを開設しました！

協会ホームページ、トップページの左側下のメニュー「産業カウンセリング研究所」、または下記のURLからご覧ください。

<http://www.counselor.or.jp/kenkyujo/index.html>